

## 特別支援学校における介護等体験の意義と内容<sup>†</sup>

— 平成19年度介護等体験学生の感想等から —

茅野 理子\*・石原 勝徳\*・永井 明子\*・三品 享子\*・船渡川 勉\*\*

宇都宮大学教育学部附属特別支援学校\*

野木町立新橋小学校\*\*

本報告は、平成19年度に特別支援学校において介護等体験を実施した学生へ課した体験の感想を分析考察したものである。学生たちが2日間の体験を通して何を学び、どのように感じたかを明らかにすることで、その意義と内容について検証することを目的とした。その結果、以下のことが認められた。多くの学生が「体験は有意義であった」と感じている。分析からは、「感動体験」を通じた、特別支援学校における児童生徒及び教師からの「気づきと学び」、そこから「偏見」に対する内省、実践的指導力の獲得、さらには、児童生徒を通して自らの「生き方そのもの」を顧みている学生の姿がみえてきた。このような結果から、学生が、2日間の介護等体験を通して、特例法に定められた趣旨にそった、有意義な体験（教師としての資質向上、人間力の向上）をしていることが検証された。一方、体験から感じとる内容の深さには個人差があり、今後の指導上の課題となった。

キーワード:介護等体験、介護等体験特例法、特別支援学校、教育的意義、体験内容

### 1. 緒言

介護等体験特例法が制定されて10年が経とうとしている。様々な問題を含みながら、特に特別支援学校(前養護学校)における介護等体験については、多くの先行研究が教育的意義を報告している<sup>1)</sup>。

福田(2003, p.84)は、「介護等体験」制度の導入・調整期における動向を、先行研究を引用しながらまとめている。それとともに、「手引き書や調査報告並びに当該学生の事後報告レポートに見られる意義や成果を総括し、介護等体験の理念の構造化を試み」、体験内容を通しての「気づきと学び」を細分化し、そこから期待される成果として、以下の5点を指摘している。すなわち、「①社会的視野の拡大および人格的成熟 ②人間教育に関する基盤的資質・力量形成 ③自らの教育理念の構築 ④実践的指導力の向上 ⑤社会的スキルの錬磨」(p.83)である。その上で、「今後は、体験の意義の検証と制

度の充実を図る新たな段階を迎えている。つまり、介護等体験による学生自身の人格的成熟や生き方との関わり、教師としての力量・資質形成に関する実証的な研究等、多面的に介護等体験の有効性を追究していく必要がある」(p.86)と、課題の一つを提言している。

本報告では、これらの先行研究及び特例法の第1条に明記されている、「この法律は、義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を定めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り」云々の、制度の趣旨を踏まえながら、学生たちが特別支援学校での2日間の体験を通して、どのように感じ、何を学んだかを明らかにすることで、介護等体験の意義と内容について検証することを目的とした<sup>2)</sup>。

### 2. 研究方法

平成19年度介護等体験参加者205名の感想文を分析検討した。具体的な手順は以下のとおりである。

① 各感想文を以下の観点で分析した。

・体験の意義 ・具体的な体験内容 ・体験前後の意識の違い

<sup>†</sup> Masako CHINO, Katsunori ISHIHARA, Akiko NAGAI, Kyoko MISHINA\* and Tsutomu HUNATOGAWA\*\* : A Study on the Significance and Task of the Experience of the Care at Special Support School.

\* Attached School for Special Support School, Faculty of Education, Utsunomiya University

\*\* Shinbashi Elementary School

- ② 抽出したキーワードを分類統合し、学生がとらえた意義を集約、検討した。

### 3. 結果及び考察

感想文から抽出されたキーワードを分類統合し、分類項目ごとに学生の記述を引用し、表 1 に示した。主要な感想は資料 1 に引用した。

この結果から、彼らがこの体験を通して何を学んだかを以下で考察していきたい。(文中、数字は通し番号を示し、下線は筆者によるもの。なお、感想の引用は、誤字脱字以外は原文のままとした。)

#### (1) 体験の意義(表 1、「体験後の感想」欄参照)

文中、「今後の私の人生に大変大きく影響」(17 女)、「ここで体験した事は是が非でものちに活かしていきたい」(20 男)、「自分の成長につながった」(29 女)、「内容が濃く、得るものの多い」(45 女)、「自分を見つめ直すきっかけ」(135 女)、「人生の中での本当に大事な経験」(141 女)、「実際に体験する事で私の世界は大きく変わった」(147 男)、「揺さぶりをかけた大きな 2 日間」(184 男)などの記述に着目した。多くの学生が「貴重な体験」や「有意義な体験」などと記していたが、その内容を吟味し、具体性、観察の鋭さ、省察の深さ、ポジティブなとらえ方の有無を分析の観点とした。

その結果、205 名中 194 名、95 % の学生が明らかに意義あるものにとらえていると考察された。11 名については、それぞれ文中に、「楽しかった」(2 名)、「貴重な体験」、「非常に勉強に」などの記述があるものの、その内容の深さ、観察的的確さに疑問が残り、不明と判断した。

#### (2) 体験前の意識

「最初はもちろん不安でいっぱい(略)子どもの伝えたいことが本当に分かるのだろうか? 伝えたいことは伝わるのだろうか?」(2 女)、「最初は不安と緊張が大きく(略)コミュニケーションをとる事が難しかった」(130 男)と、多くの学生が体験前の不安とそこから生じる緊張を記している。不安は「コミュニケーション」に付随するものであり、この点で事前指導が必要であるように思われる。しかし、『障害児の発達と教育』という授業を受け(略)教材だった『フィリア』に再度目を通し(略)しかし考えれば考えるほど、どうして良いかわからず」(134 女)、「机上で学んだことなんて、活かされることはあまりないと思った」(23 女)とあるように、

実際に体験して初めて感得できる「気づき」であるとも言え、ここに体験の意義の一つがあると考えられる。

#### (3) 体験内容

##### ① 偏見への気づき-内省

多くの学生が特別な支援を必要とする子どもたちへの偏見についてふれている。

「まず始めに、自分の偏見に気が付いた」(77 男)と言い、作業や運動の様子などを見て、「自分よりも余程早く動いているし、何より自分から動けるところなど、自分にはないものでうらやましく感じたくらいだった」という内省に至っている。その内省は、「運動会当日、子供たちが行進し、走り、おどるすがたを見て、がんばっているすがたを見て、涙が出そうに(略)でもそんな自分が、子供たちに“同情”、“かわいそう”と思っているような気がして、自分が嫌になりました。子供たちに、もしどんな障害があったとしても、私たちと同じ世界で生きている。私たちとの違いは、彼らが思ったこと、感じたこと、悲しいということ、嬉しいんだということを体いっぱい表現している。そして私たちはどうもそれを苦手としている、ということだと思いました」(165 女)、あるいは、「介護等体験に参加する以前は少し障害のある方々に対して“かわいそう”という感情を持っていました。しかし体験を終えて、“かわいそう”という言葉は障害のある方々に対して失礼に当たる言葉だったと気がきました。障害のある方々だって私達と何も変わらないし、障害のあると言うこと自体その人の個性なんだと思いました」(196 男)と、深い洞察に至り、さらには、「障害のある方々にはその人の、健康な私達には私達のやるべきことがあって、もし障害者の方々がそのやるべき事をしようとしているけど自分自身でするのが困難であったなら、私達がそれをサポートする、それが私達のやるべき事の一つだと思いました。(略)私も今やるべき事を精一杯頑張ろうと思えます」(同)と、自らの生き方にまで言及している。そして、これこそノーマライゼーションの基本思想と考える。

##### (4) 感動体験-子どもたちからの気づきと学び

こうした偏見に対する内省は、子どもたちを通した感動体験から、気づき、学んでいる面が多い。

表 1 や資料 1 に見られるように、子どもたちの純粋さ、素直さを多くの学生が指摘し、「ねたみと

表1. 平成19年度介護等体験の感想(分類別)

注) ① 表中、通し番号を付けて個人を区別した。なお、番号は次の所属を示す(各部の体験内容については資料参照)。1~42: 小学部 43~83: 中学部 84~130: 高等部 131~205: 全体 ② …は省略を示す。 ③ 「体験後の感想」は番号省略。

分類	内容及び感想(抜粋)
の 意 識 前	介護等体験に来る前までは、とても不安…コミュニケーションがうまくとれるのか(22女)/宿泊ということで、何をやるのかもよくわからなくて、すごく不安(29女)/大きな不安を感じており(30男)/どのように生徒達に接していけばいいかなどがわからず、不安や心配が多いスタート(123男)/期待よりも不安が大きかった…コミュニケーション(127男)/不安…緊張…コミュニケーション(129男)/最初は、不安と緊張が大きく…コミュニケーションをとる事が難しかった様な気がする(130男)/子供達とうまく接することが出来るかどうか不安…壁を感じていた(135女)
気 づ き へ の	障害を抱えた子供たちに対する見方が変わりました…自分の思い込みで勝手に苦手意識をもっていたことがはずかしい(4女)/ある種の壁を感じて…そんな偏見にも似た感情を抱いていた自分がはずかしく(23女)/まず初めに、自分の偏見に気が付いた(77男)/変な偏見を持ったまま一生を終えていた…来られて良かった(101男)/無邪気な笑顔で生活している生徒を見て、「障害者」という呼び方で呼ぶのは全く合わないと思われました。今まではやはりどこかで偏見を持っていましたが(93女)
子 ど も た ち か ら	子どもたちは皆非常に純粋で素直(1女)/愛情表現が上手な子ばかりで、近づいていけば何が行動を起こしてきて、すごく助かりました。(6女)/暗い印象がありましたが、この学校の児童は明るくとても元気(20男)/子供たちの純粋な可愛らしさを感じる事ができ、非常に楽しかった(103男)/見知らぬ人に対して、初対面の人に対してあれ程気持よくあいさつされるのは、正直思ってもいませんでした(121男)/障害児として…ここに在学している彼らだけれど、その実私達と何ら変わらないのだ、同じなのだ、個性があり思いやりのあるいい子達なのだ。それを感じられた、或いは再確認できただけでも、今回は成果があった(124女)/むしろ壁をつくってしまっているのは私だったのではないかと、その時に気づき(198女)
学 び	みんな、素直でいい子たち…進んで片づけを…していたり、悪いことをしたと思ったらすぐに謝ったり、今の私達がしていないこと、忘れていたことをやっつけて、教えられたことがたくさんあり(6女)/子どもたちと触れあう中で多くのことを学び、意外な点や普段は何気なく見過ごしているようなことを子どもが指摘し、発見させられた(68男)/二日間とも、生徒に助けられてばかりの実習(71)/子どもたちに助けられながら、教えられながら(76女)/結局、助けられたのは私の方(158女)
感 動 体 験	高等部では作業学習の成果を…とても細かい作業で上手にできており、小学部からの教育によって、ここまで生徒たちが成長するのは、すごいと率直に感動(81女)/織物・縫製班では、先生方の指導を受けながら黙々と作業をこなしているのがとても印象的…何もしない子は1人もいず、一人一人がしっかりと役割を持っていました。そんな姿は、私が中・高生だった時のクラスの姿よりも集中して取り組んでいるように思え、とても驚き…感動(93女)/ここで働く先生方は、いつも大変な苦勞をしているのだと思う。しかし、確かに苦勞を伴うかもしれないが、それ以上に素直なこともある、魅力的な仕事であると感じた(114男)/教師生徒一体となつてこなしている姿に感動(120女)/マラソン大会…教室では好き勝手に手叩きをしたり、飛び上がった、椅子をひっくり返していた子達が、皆揃って真剣な目をして走っていた。その姿には回答無用で感動させられた(124女)/自分自身が元気づけられたし、勇気をもらえた(129男)/養護学校の教員という職業は、とても大変で繊細なものであると思いますが、…こんなにやりがいのある仕事もあるのだと感じ…先生と生徒の関係を見ていて、中学校や高校よりも、より近い関係のように感じて、それが本当にいいなと(137男)/一生懸命生きることのすばらしさ(158女)/感じたことは、みんなお互いを支えあい、応援しあっている…できることはちゃんと自分でする、そしてちゃんと周囲を見て、お友だちに見えることを探しているように見え(165女)/感動ばかり…自分の成長の為に必要なひととき(196男)
気 づ き	生徒にとって困難な作業であっても、生徒自身にやらせる、いけないことをした時はきちんと叱る。これらが本当の優しさなんだと(93女)/自分でできることは自分でやらせ、社会に出ていけるようにしてあげる。そういうことが本当の優しさ(137男)/先生方のサポート…子どもたちがより良い学校生活を送るため全力をつくしている(181女)
学 び	生徒に何かを説明するには単なる言葉だけではなく、分かり易く具体的な問いかけや、視覚に訴えるものが大切なのだ知り(78男)/できるだけわかりやすいように視覚資料を多く用いて、様々の面で工夫が見られ、感心する場面が多々あった(83男)/誉め方、叱り方、などなどの指導の仕方は、学校の講義なんかでは計り知れない程の良い経験になった(108男)/生徒一人を全体が受けとめる形の個別教育が実現(128男)/授業だけやれば良いという「先生」のイメージに反し、実際は力仕事をしたり、周到に計画をたてたりするという、「縁の下の力持ち」的な「先生」をこの体験では多くみられ(157)/まず感じたのは、先生方の厳しき…一人でやれることはやらせるという厳しき大切さを学び(180女)
意 欲 へ の	教員になろうとする全ての人に(5男)/「教育」についてもっと興味を持つことができ(10女)/あらためてまた教師になりたいと(12男)/やはり教師はすてきな仕事だと(24男)/教師になろう(29女)/教師になることに…現実感がよき(44女)/教員になるためのスキル向上(53男)/教職につくための重要な体験(85女)/「先生」という職業の魅力をより一層感じ(131女)/これから始まるであろう教師生活の大きな糧(145男)/将来教師になりたいと思う私にとってすごく貴重な経験(154女)/学校っていいなあ、教師って素敵な職業だなあ(167男)/養護の先生もやりがいのある楽しい仕事(194女)/小学校教師を目指している私にとってとても参考に(202女)/子どもを教える立場である教師全員の役目(204男)
へ の 自 ら の 生 き か け	今後の私の人生に大変大きく影響(17女)/ここで経験した事は是が非でものちに活かしていきたい(20男)/自分の成長につながった(29女)/将来についての考え方にまで刺激(30男)/得たものは多く、少し自分に自信が(72女)/自分という人間が…成長していくのに(77男)/自分の中の大きな変化(96女)/自分を見つめ直すキッカケ(135女)/人生の中でこの本当に大事な経験(141女)/実際に体験する事で私の世界は大きく変わった(147男)/たくさん考えることがあった(164女)/体いっぱいでも表現できる、素直な人になりたい(165女)/見出したものは今後の自分に大きな糧(166男)/自分の視野が広がった(169女)/それ以上に自分の人生の財産になったのではないかと(175男)/たくさん考えるきっかけに(183女)/揺さぶりをかけた大きな2日間(184男)/自分の成長の為に必要なひととき(196男)
の 感 想 後	貴重で素晴らしい経験/楽しくて実りある2日/本当に楽しかった/貴重な体験/有意義な体験/充実した/よい体験/疲れたけれど楽しい2日間/かけがえのない/これから役立つ体験/将来必ず役に立つ経験/有益な/学ぶことがたくさんあった実り多き実習/参考に/内容が濃く、得るもの多い/勉強になる/他では味わえない楽しさ、厳しき/新鮮で/大きな経験…今は…この体験が出来て満足/意味のあるもの/感謝の気持ちで一杯/居心地がよかった…幸せな気分/感動ばかり
習 二 日 間 の 実 際	今回学んだ事を活かすためにも、そして学びきれなかった事を教わるためにも、何よりまた子供たちにあうために、ぜひまたお伺いしたい(17女)/5日間にした方が(37男)/もう少し実習をやりたい(59男)/子どもたちがみんな笑顔で、先生方もあたたかい特別支援学校にまた来たい(65女)/できればまだこの学校で実習をしたい(66女)/とても短く感じられた2日間(76女)/とても短かった(86男)/短い期間(90女)/あつという間(92男・146男・192女)/2日間があまりにも少なくて感じた(115男)/2日では足りない(138男)/名残惜しいくらい(159女)/機会があったら、ぜひ来たい(162女)/機会があったら、ぜひまた体験、見学に来たい(163女)/短い実習期間であったことが非常に残念(181女)

か怒りとか、そんな感情からは遠くてもものすごく洗練されたキレイな心があふれている」(152 女)と、あるいは「一生懸命生きることのすばらしさ」(158 女)に感動している。それは、「私が中・高生だった時のクラスよりも集中して取り組んでいるように思え、とても驚き」(93 女)、ひいては「今の私達がしていないこと、忘れてることをやっけて、教えられたことがたくさんあり」(6 女)と、「学び」に結びついている。その感動は、「自分自身が元気づけられたし、勇気をもらえた」(129 男)など、多くの学生が、「結局、助けられたのは私の方」(148 女)、「二日間とも、生徒に助けられてばかりの実習」(71 女)と言い、子どもたちからの学びを実感する豊かさにつながっている。稲垣等(1996:28)が、「学び成長し続ける者のみが教えることを可能にするのであり、教育者は、何よりもまずよき学び手でなければならない」と述べているように、子どもたちから学ぶという姿勢は、教師の資質として重要な要素の一つであるように思われる。

#### (5) 感動体験－教師からの気づきと学び

また、教師からの気づきと学びも多い。

まず、「私は『遅れがある子どもたち』というのを意識しないようにしましたが、何かをやっけてあげる(略)やっけてあげたことで『遅れがある子どもたち』という目で見ってしまったのかもしれない。しかし、先生たちは『やっけてあげたい』という気持ちがあっても、『やらせる』ことが本当の意味でその子のためになり、その子と普通に接していることだと感じ」(122 男)と、「見守ることの大切さ」(62 女)に気づく。同時に、「今回一番印象に残ったのは、先生方の生徒への接し方(略)障害があるが故の行動に対して時には寛容に、しかし障害があるからと言って許されないことに対して厳しく」(78 男)と、教師の本来在るべき姿に思い至る。「誉め方、叱り方などなどの指導の仕方は、学校の講義なんかでは計り知れない程の良い経験になった」(108 男)と、あるいは、叱ることと誉めることの「バランスが絶妙」(6 女)と感心する。そして、それが「子どもと教師の間の信頼関係」(24 男)に基づくことを悟り、「全員が家族のよう」(22 女)だと言う。

「先生の姿もまた格別で、子どもを受け入れ、成長させていく姿が私の中でとても印象的です。正直、自分の中でこんなに意識が変わったのも驚きでした」(194 女)と言い、具体的に、「生徒に何かを説

明するには単なる言葉だけではなく、分かり易く具体的な問いかけや、視覚に訴えかけるものが大切なのだと知りました。(略)低学年ほど文字と共に写真や擬音を併用して生徒が分かるための手がかりを示してやり、学年が上がるにつれて少しずつその情報量を減らしていくなど、援助の手段は様々で、実に奥深いものでした」(78 男)と、実践的指導力に結びつく学びをしていることが読み取れる。

そしてその思いは、「2 日目になり、徐々に慣れ、先生達の動きを見ていると、一人の児童と遊びながらも、他の児童が外へ行ってしまった時すぐに気付いて、その視野の広さに驚きました。(略)給食の時間、私はほっとした気分できると、決してほっとする時間ではなく、一人一人のより細かな配慮が必要なのだと(略)先生達は、常に児童の食べるスピードやおかわりしたかどうかを気にかけていてすごい(略)この2日間で、楽しさの方が多く感じたが実際は児童との関いなのだと思います」(14 女)、あるいは、「2 日間しか実習を行っていないので(略)先生方のご苦労もわかりません。だからもう少し実習をやってみたいというのが本音」(59 男)と、今回介護等体験では触れられなかった面にも想像力を働かせ、積極的な姿勢を見せている。

そうした体験は、教師の役割そのものにも言及する。「自分は体験に来る前までは障害児を消極的なイメージで捉えていました。(略)決して『できない』訳ではなく、『できるまで時間がかかってしまう』だけなのです。一つの作業を覚えさせるのに、(略)何回も教えられないと上手にできないかも知れません。しかし、それらだっただけの彼らの大切な個性です。それらを親や教師をはじめ社会全体がどう捉えていくかによって『障害』という概念は大きく見方が変わってくるのでないでしょうか。(略)みんなそれぞれに立派な個性を持っているなと感じました。それらを見極めて、苦手な所は克服させ、得意な所を伸ばしてやる、それが障害児ばかりでなく、子どもを教える立場である教師全員の役目だと、この体験を終えて感じました。」(204 男)

#### (6) 教師への意欲(表1、資料1参照)

これまで見てきたように、ほとんどの学生が何らかの形で教師への意欲を語っているが、体験後、「将来教師になりたいと思う私にとってすごく貴重な経験」(154 女)などと、それを明記した学生は 19 名、約 1 割であった。なかでも、「最近、教師の不

祥事などが様々に報道され、教師という職業に対してあまり良いイメージを持てなかったのですが、今回の体験を通して『学校っていいなあ、教師って素敵な職業だなあ』と改めて感じ（167 男）などという感想は、この体験が教師への意欲づけとなっていることを明確に示唆するものである。

また、「教師という仕事はやっている時は、これが成功するものなのか分からず、後になって、ああ間違っていなかったと知ることができる仕事（略）それは不安で大変なことだけど、今回子供たちと接して、本当に楽しいと感じることができ（略）これのために頑張れるんだなど」（13 男）とか、「とてもエネルギーを使う（略）でもその分生徒たちの反応や成長に一喜一憂できることは教師の楽しみの一つだと、（略）感じる事ができ」（18 男）という感想は、教師の担う責務を的確に把握しつつ、その意欲を高めている好例と言えよう。

こうした体験内容を図 1 にまとめてみる。

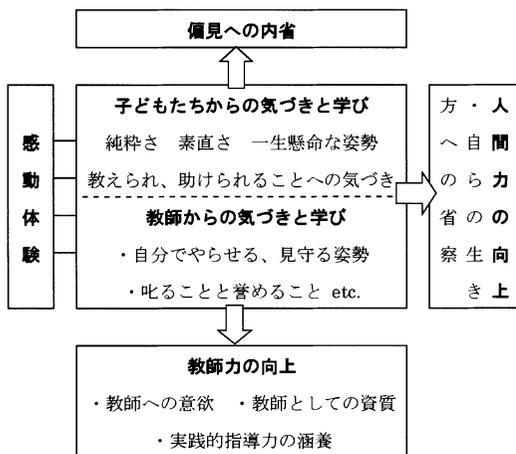


図 1. 特別支援学校における介護等体験の意義とその内容

特別支援学校には教育の原点があるとはよく言われることであるが、そこに展開される「人間教育」に学生が多くを学び、自らを省み、教師としての自覚を深めていく過程を感想文の分析から洞察することができる。

#### (7) 今後の課題

体験後の感想を見ると、「楽しい」、「貴重な体験」、「有意義な体験」という語が多く見られた。表 1 に示されるように、2 日間の実習について、多くの学生が短いと感じ、そのため十分な観察ができなかったという面もある。しかし、はたしてどの部分に感動し、何を学んだか、その観察力には個人差があ

る。ただ単に「楽しかった」と、表面的にとらえ方しかできていない学生も数人いた。福田（2003, p.87）が言うように、「体験の成果を左右する最大の要因が、その意義づけと意欲にある」ことは明らかである。そのための事前指導をどう行うか、それが今後の課題と言える。

#### 4. まとめ

本報告は、平成 19 年度に特別支援学校において介護等体験を実施した学生へ課した体験の感想を分析考察し、その意義と内容について検証することを目的とした。その結果、以下のことが認められた。多くの学生が「体験は有意義であった」と感じている。分析からは、「感動体験」を通じた、特別支援学校における児童生徒及び教師からの「気づきと学び」、そこから「偏見」に対する内省、実践的指導力の獲得、さらには、児童生徒を通して自らの「生き方そのもの」を顧みている学生の姿がみえてきた。このような結果から、学生が、2 日間の介護等体験を通して、特例法の趣旨にそった、有意義な体験（教師としての資質向上、人間力の向上）をしていることが検証された。一方、体験から感じとる内容の深さには個人差があり、今後の指導上の課題となった。

#### 注

1) 福田（2003：84）は、先行研究による各大学の実態調査を踏まえ、様々な問題、批判はあるものの、「制度の趣旨や理念をも否定するものではない、つまり、介護等体験のもつ教育的意義は極めて肯定的に理解されて」いると述べている。

1) 本報告は、計画立案等を平成 19 年度介護等体験係である永井、船渡川、三品が、全体統括を石原、分析考察を茅野が担当した。なお、船渡川は、同 20 年度、野木町立新橋小学校に転出した。

介護等体験を実施するに当たり、特別支援学校の全教職員の皆様、そして児童生徒の皆さんに感謝したい。  
(文責 茅野)

#### 引用文献

1. 稲垣忠彦・佐藤学（1996）子どもと教育 授業研究入門. 岩波書店.
2. 福田恵子（2003）「介護等体験」制度の導入・調整時期における動向と課題. 美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要 48：79-90.

## 資料 1. 介護等体験感想：教師としての力量・資質形成に触れた感想を抜粋

\* 数字は通し番号。表1に符号。下線、塗りつぶし（「教師への意欲」が明記された部分）は筆者。

● 6月25日・26日実施：小学部クラス参加・「あるこう」参加（教育学部 19女）  
この2日間の体験は、2日間という短い時間ではありましたが、すごく大きなものとなって私の中に反映しています。ではこの大きなものとは何か？と聞かれると未だ具体性がありません。ただ、子供たちがかわいくて仕方がないということ、そして、また明日も学校に来たいと思うこと、更に、早く先生になりたいと思うことが明確なものとしてあるくらいです。それでも、一つ一つ思い出して、落ち着いてみると、まず、「コミュニケーション」の大切さ、それと楽しさを感じました。初日、私はまずそれに戸惑いました。どう話しかければ良いのだろうか？しかし私がその問いに對しいわゆる一般的な反応を期待してしまっていたことがまず間違だったように思います。そういった期待を抱かず、話しかけてみる、とりあえず話しかけてみる、そうすると少し気が楽であつたし、何よりも楽しいと感じることが出来ました。(略) 個々に応じた教育・教材に、まず驚きました。ここまでするのには先生方も大変だっただろうなと…という思いも抱きました。(略) 先生という職業は体力勝負と言っても過言ではないと思いました。(略) 学校に戻って、勉強するのですが、おそらく、今日よりも力が入ると思います。むしろ、力を入れて頑張ろうと思ったことを忘れずいかなければならないと決意を新たにしました。早く先生になりたい、子供たちがかわいかった、また明日からちゃんと勉強しよう、の3点が今のところ考えていることです。最後に一つ、先生たちは本当に大変だと思いましたし、素晴らしいと思いました。

● 7月10日・11日実施：小学部宿泊学習（国際学部 28男）  
何よりも実感したのは子供達の持つ素直さや無邪気さでした。「自閉症」や「ダウン症」という障害を持っているようには感じられませんでした。子供一人一人が自分の特性を思いっきり出しているように思えたのです。このように感じられたのは、この学校におられる職員一人一人の愛と情熱と努力のたまものだと思います。先生達の愛や想いを受けとった子供達と、2日間という短い時間でしたが、共に過ごしたことは私にとって、本当にかけがえのないことでした。一緒に過ごす内に「障害」という言葉がどれだけ悲しいものなのかも分かりました。こんなにも個性溢れる子供達だということ、この日本社会には将来における彼らの受け皿がないという話も聞きました。この実習を通して学んだことは子供と向き合う事はもちろん、自分の暮らす社会が「障害者」と呼ばれる人に対して孕んでいる矛盾や問題へ立ち向かっていく姿勢なのです。私の夢の一つは、教師となることです。教師になつた私に出来る事は、人を導くと共に、子供一人一人がこの社会でよりよく生きて行けるよう、この社会自体を改善していく事だとも思うのです。今回の実習は改めて、それを痛感しました。(以下、「子供達へのメッセージ」1頁分省略)そして、お世話になった先生方、本当にありがとうございました。例え、短い時間であっても、子供との接し方や注意する時の態度や、何より一緒に楽しむ姿は、私にとって大切なお手本でした。この経験を次に生かせるよう学び、そして努力していきます。

● 7月10日・11日実施：小学部宿泊学習（教育学部 30男）  
私は、特別支援学校での介護等体験には大きな不安を感じており、行きたくないと思っていた。しかしこの体験は私にとって非常に有意義であり、私の将来についての考え方にまで刺激を与えてくれた。一日目、私は初対面や人前での会話が苦手なものでなかなか馴染めなくあせていた。(略) 2日目からは積極的に子供達と接することができた。この時からは義務感からではなく、ごく自然に。2日目の掃除後、お話を聞かせていただいたことが印象に残っている。何人かは野菜をまったく食べなかった等、今の子供達を見ていると考えられなかった。その時に先生方の教育がこのように所に確かな成果として出ているのだと実感した。振り返れば先生方が発する言葉、行動の中には、常に教育するということが軸になっているように思えた。今回の体験では、勉強をしに来た学生として、(略)などの視点からさまざまなものを学んだと実感している。私はどうしても一人になる時間が必要である(特に夜は)と思っていたが、それは社会に出た時に通用しない甘えであること、みんなが社会に出ようとがんばっていることなどが私の心に強く響いている。そして私は、教育の現場に大きな不安を感じ、その道を断とうと考えていたが、また考えが変わりそうである。今回は子供達がバニックになつたりせず、先生方がつらいと思うであろう場面に関わることもなかったのも、そういう場面にも触れてみたい。

● 5月31日・6月1日実施：中学部運動会練習、教材作り・授業見学、教材作り（教育学部 44女）  
(前略)授業見学では、算数のたし算をする子もいれば漢字をやる子もいて同じ学年でもその子に合った内容のものをやっていた。たし算をしている子は、その最中はすごく真剣にやっていて、その集中力には驚いた。私は一度に一人の生徒しか見れなかったが、先生達は一度にばらばらのことをやっている生徒を三人も見ていて、的確な助言をしていた。また、私が言っても聞き入れないことでも、先生が言えばすぐ従っていて、そこには信頼関係があるのだなあとと思った。(略) また、この体験では子供と接することだけが教師の仕事ではないことを学んだ。空き時間には机に向かって子供達の様子や今日やったことをノートに書いていた。それに、運動会の教材作りもした。沢山の教材を黙々と作って地味な作業が大変だった。このように、教師は子供達の学校生活が円滑に進むように影では多くの苦勞と努力があった。私にとってこの介護等体験は教師になることの楽しさや大変さ、自分に欠けているものは何かを知ることができるいい機会になった。今までは、教師になることに漠然と不安を抱いていたのだが、この体験を通して現実感がわき、今自分が何をすべきなのかがはっきりとした。2日間のことを忘れずに、今後も教師になるための勉強に励み、活かしていきたい。

● 6月6日・7日実施：中学部運動会予行練習、除草・運動会予行練習（教育学部 152女）  
(前略)皆がものすごく純粋で素直(略)自分では出来ることはやらせるように促し、ダメなことはしっかりとしかって理解させることが子どものためになっていると感じ(略)つくづく先生たちはすごいと思いました。言葉を変えることができない中にも伝わってくるものがあると思うのが洗われたような気がします。(略)本当に色んな子がいて、その中でケンカもするし暴力的な言葉を発しがちな子や人が嫌がることを何の悪気もなくしてしまう子もいる。しかしそれをきちんとしかってダメなことはダメ。良いところはきちんとほめてあげる。アメとムチを先生たちはしっかりと使い分けてきて子どもと向き合っていました。そんな環境で過ごしている子どもたちだからこそよく笑って楽しそうに過ごしているのだと思いました。2日間で私は本当にたくさん笑顔を見ることができました。ねたみとか怒りとか、そんな感情からは遠くてもすごく洗練されたキレイな心があふれているような場所でした。この子どもたちは人の心にとっても敏感で何でも見透かされてしまいそうです。子どもたちの笑顔は美しく何度でもいやされました。ニコニコって笑われると抱きしめたくります。先生方からも子どもへの接し方や対応を学ばせていただきました。温かい空間でした。何の役にも立てなかったけれど貴重な体験をありがとうございました。また子どもたちに会いたいです。

## 資料2. 平成19年度介護等体験実施内容

## H19年度介護等体験実施計画（全体）

\* 学生数は受入学生数を示す。一部抜粋。

No.	月 日(曜日)	主 な 内 容	担当者	学生数	活動内容・準備物・配慮事項等
1	5月29日(火) ----- 30日(水)	各部授業参観, 授業参加 運動会関係教材作り プール清掃(2日目), 除草作業	全体 各学部	13人	校内見学, 各学部の授業に参加, 運動会関係教材作り, プール清掃, 除草作業(運動着, 上履き, 運動靴, 帽子, 筆記用具, ハーフパンツ, タオル, 軍手)
2	6月6日(水) ----- 7日(木)	各部授業参観, 授業参加 運動会練習参加 除草作業	全体 各学部	13人	校内見学, 各学部の授業に参加, 運動会練習参加, 除草作業(運動着, 上履き, 運動靴, 帽子, 筆記用具, 軍手)
3	6月8日(金) ----- 9日(土) ※10日(日)	各部授業参観, 授業参加 運動会準備 運動会参加(2日目)	全体 各学部	15人	校内見学, 各学部の授業に参加, 運動会準備, 運動会参加(運動着, 上履き, 運動靴, 帽子, 筆記用具, 軍手) ※9日(土)が雨天の場合, 10日(日)に延期になります。当日はお弁当を持参してください。
4	10月11日(木) ----- 12日(金)	各部授業参観, 授業参加 校内清掃, 除草作業	全体 各学部	13人	校内見学, 各学部の授業に参加, 校内清掃, 除草作業(運動着, 上履き, 運動靴, 帽子, 筆記用具, 軍手)
5	11月5日(月) ----- 6日(火)	各部授業参観, 授業参加 「ふれあい祭」準備 校内清掃, 除草作業	全体 各学部	13人	校内見学, 各学部の授業に参加, 「ふれあい祭」準備, 校内清掃, 除草作業(運動着, 上履き, 運動靴, 帽子, 筆記用具, 軍手)
6	11月12日(月) ----- 13日(火)	各部授業参観, 授業参加 「ふれあい祭」準備 校内清掃, 除草作業	全体 各学部	13人	校内見学, 各学部の授業に参加, 「ふれあい祭」会場作り, 校内清掃, 除草作業(運動着, 上履き, 運動靴, 帽子, 筆記用具, 軍手)

## H19年度介護等体験実施計画（小学部）

No.	月 日(曜日)	主 な 内 容	担当者	学生数	活動内容・準備物・配慮事項等
1	5月31日(木) ----- 6月1日(金)	運動会練習参加 教材作成の補助 授業の見学・参加	小学部	6人	児童と共に活動(授業, 運動会の練習参加) 運動会に使用する小道具作り 体操着, 運動靴(上履き, 外履き)帽子
2	6月4日(月) ----- 5日(火)	運動会練習参加 教材作成の補助 授業の見学・参加(プール清掃等)	小学部	6人	児童と共に活動(授業, 運動会の練習参加) 運動会に使用する小道具作り, プール清掃 体操着, 運動靴(上履き, 外履き)帽子, ハーフパンツ
3	6月21日(木) ----- 22日(金)	授業の見学, 参加 校外学習「あるこう」に参加	小学部	6人	児童と共に活動(2日目は校外学習), 除草作業 体操着, 運動靴(上履き, 外履き)帽子, 軍手 2日目は飲み物持参
4	6月25日(月) ----- 26日(火)	授業の見学, 参加 校外学習「あるこう」予備日	小学部	6人	児童と共に活動(2日目は校外学習を行う場合あり), 除草作業 体操着, 運動靴(上履き, 外履き)帽子, 軍手
5	7月5日(木) ----- 6日(金)	校内宿泊学習準備, 片付け 小学部2組校内宿泊学習参加	小学部	4人	児童と共に活動, 晴天時はプールでの活動あり 食事作りや清掃の手伝い, 体操着, 運動靴(上履き, 外履き)帽子, 調理用エプロン, 三角巾, マスク, プールの用意(水着, バスタオル等)宿泊の用意(着替え, 洗面用具等)
6	7月10日(火) ----- 11日(水)	校内宿泊学習準備, 片付け 小学部3組校内宿泊学習参加	小学部	4人	
7	10月17日(水) ----- 19日(金)	授業の見学, 参加 校外学習「サツマイモ掘り」に参加	小学部	6人	児童と共に活動, (2日目は校外学習) 体操着, 運動靴(上履き, 外履き)帽子, 軍手
8	11月1日(木) ----- 2日(金)	授業の見学, 参加 校外学習「あるこう」に参加	小学部	6人	児童と共に活動(2日目は校外学習), 落ち葉掃き 体操着, 運動靴(上履き, 外履き)帽子, 軍手 2日目は弁当, 飲み物持参

## H19年度介護等体験実施計画（中学部）

No.	月 日(曜日)	主 な 内 容	担当者	学生数	活動内容・準備物・配慮事項等
1	5月31日(木) ----- 6月1日(金)	運動会関係教材作り, 授業参観, 授業参加	中学部	6人	教材作り, 授業参観・参加(運動着・上履き・運動靴・帽子)
2	6月4日(月) ----- 5日(火)	運動会関係教材作り, 授業参観, 授業参加, (プール清掃等)	中学部	6人	教材作り, 授業参観・参加(運動着・上履き・運動靴・帽子) プール清掃(*ハーフパンツ持参)
3	7月2日(月) ----- 3日(火)	花壇の手入れ, 授業参観, 授業参加 (プール活動)	中学部	6人	校内除草, 花壇の手入れ, 授業参観・参加(運動着・上履き・運動靴・帽子・水着・タオル・軍手等)
4	7月11日(水) ----- 12日(木)	校内宿泊学習事前準備, 授業参観, 授業参加(プール活動), 買い物学習参加	中学部	6人	宿泊施設清掃, 授業参観・参加(運動着・上履き・運動靴・帽子・水着・タオル等), 買い物学習(近隣のスーパーへ)参加

5	10月18日(木) ----- 19日(金)	花壇の手入れ, 授業参観, 授業参加 (校外学習実施の場合あり)	中学部	6人	花壇の手入れ, 授業参観・参加 (運動着・上履き・運動靴・帽子), 校外学習実施の場合 (バス代・昼食代 ¥1,500程度)
6	10月25日(木) ----- 26日(金)	花壇の手入れ, 授業参観, 授業参加 (校外学習実施の場合あり)	中学部	6人	花壇の手入れ, 授業参観・参加 (運動着・上履き・運動靴・帽子), 校外学習実施の場合 (バス代・昼食代 ¥1,500程度)
7	11月8日(木) ----- 9日(金)	花壇の手入れ, 授業参観, 授業参加 (校外学習実施の場合あり)	中学部	6人	花壇の手入れ, 授業参観・参加 (運動着・上履き・運動靴・帽子), 校外学習実施の場合 (バス代・昼食代 ¥1,500程度)

#### H19 年度介護等体験実施計画 (高 等 部)

No.	月 日(曜日)	主 な 内 容	担当者	学生数	活動内容・準備物・配慮事項等
1	4月27日(金) ----- 5月1日(火)	授業参加 遠足の参加・引率補助	高等部	6人	授業参加 (体育着・帽子・上履き・運動靴) 遠足引率補助 (遠足にふさわしい服装・昼食・おやつ)
2	5月31日(木) ----- 6月1日(金)	授業参加・運動会教材作り	高等部	6人	授業参加 (体育着・帽子・上履き・運動靴)
3	6月4日(月) ----- 6月5日(火)	授業参加・運動会教材作り (プール清掃の場合あり) 授業参加・運動会教材作り	高等部	6人	授業参加 (体育着・帽子・上履き・運動靴) プールの用意 (水着, バスタオル等)
4	6月27日(水) ----- 6月28日(木)	校内実習授業参加 宿泊学習1年参加	高等部	4人	校内実習の参加 (体育着・上履き) 授業参加・宿泊学習補助 (体育着・上履き)
5	7月10日(火) ----- 7月11日(水)	除草作業・授業参加	高等部	4人	花壇の手入れ・授業参加 (体育着・帽子・上履き・運動靴)
6	7月12日(木) ----- 7月13日(金)	除草作業・授業参加(晴天時プール活動あり)	高等部	4人	花壇の手入れ・授業参加 (体育着・帽子・上履き・運動靴) ・プールの用意 (水着, バスタオル等)
7	11月16日(金) ----- 11月17日(土)	授業参加・学校祭「ふれあい祭り」準備 学校祭「ふれあい祭り」参加	高等部	10人	ふれあい祭り会場準備・授業参加 (体育着・上履き・運動靴) ふれあい祭り授業参加 (体育着・上履き・昼食)
8	11月29日(木) ----- 11月30日(金)	校内美化・授業参加 マラソン大会の参加・補助 授業参加	高等部	10人	授業参加 (体育着・上履き・運動靴) マラソン大会補助・授業参加 (体育着・上履き・運動靴・昼食)